

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作り、日々理念に立ち返り実践できる事を目標にしている。朝礼時は法人の理念・事業所の理念を唱和している。	法人の掲げる三つの理念を基に、ホーム独自の理念をつくりあげ、管理者と職員は理念を共有し、常に立ち返り実践に繋げている。朝礼時には全員で唱和し常に意識づけをしている。利用開始時には、利用者や家族に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭はご近所の方・自治会の皆さんにも参加いただいた。ボランティアに来園いただき地域とのつながりを大切にしているが、日常的に地域の皆さんと交流を図ることは今後の課題である	法人として自治会費を納め、納涼祭にはご近所を含め自治会より多くの住民の皆様の参加をいただくことができたという。昨年は毎年行われる地区の祭り「どんとこい祭り」に初参加し地域との交流を深めることができた。各種ボランティア(踊り、洗濯畳み・雑巾縫い、高校生のスプリングチャレンジ、小学校PTA人権委員会等)の来訪があり地域との関係を育んでいる。年3回(正月・春・秋)発行される「ちよっとみてみて」は法人の上田西地区の系列事業所の紹介や行事を掲載した地域に向けたお便りで、職員紹介や活動状況も掲載している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の職業体験の受け入れを行った。質問などには丁寧に答える時間をもうけている。地域の皆様に向けた認知症の理解や支援など伝える場所を持つことは今後の課題である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い状況報告をしている。地域とのつながりやサービス・消防訓練などに意見をいただき運営に活かしている。地域の老人会の皆様をご紹介いただきボランティアにきていただいた	奇数月に開催し、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行い、今年度5回目が終了している。参加メンバーは利用者代表、家族代表、副自治会長、第三者委員、民生児童委員、上田市高齢者介護課担当者、地域包括支援センター職員で構成され、状況報告(活動、健康状態、行事、事故、訪看の来訪日等)を行い、意見をいただき運営に活かしている。今年度の運営推進会議より提案のあった「ホームでの作品展」を実現させようと計画を進めているという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市派遣の介護相談員に3か月に1度訪問していただいている。認定調査の際は立会いし情報を伝えている。運営推進会議では日頃の様子を報告する中で協力関係の構築を行っている。	市より派遣される介護相談員の定期訪問があり、意見要望をいただき運営に活かしている。要介護認定の更新や状態等の変化による区分変更申請は家族の依頼があれば代行申請をしている。認定調査の折には家族の立会いをお願いし、日頃の様子を伝えている。地域包括支援センター主催のケア会議は複合施設の施設長が代表して参加し連携や情報共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解できるように職員研修を行い意識を高めている。玄関は施錠しているがご利用者の様子を見て一緒に散歩やベランダでの気分転換を行っている。	職員全員が身体拘束の内容や身体拘束がもたらす弊害を正しく理解できるように職員研修を繰り返し行い意識を高めている。外出傾向のある方には一緒に付き添い、買い物に出掛けたり、外気に当たり気分転換を図る等の工夫をしている。安全面を優先し一時的にセンサーマットを使用しケアを行ったという事例があったという。	

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行いDVDを観て勉強した。また、日ごろから身体・言葉による虐待防止に努めている。日々の何気なく行う言動が虐待につながるものではないか皆で振り返りをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に4名の職員が参加し学ぶことができた。今年度参加できなかった職員は来年度研修に参加し学ぶ機会をつくっていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は重要事項の詳しい説明を行い納得と了承をいただいている。改定の際は説明と共に文章でもお渡し了解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見や要望を出してもらっている。介護相談員の訪問時のご利用者に要望や意見を聞いて貰っている。出された要望などは職員に周知し改善している。	利用者の殆どは自身の身体面の衰えを感じながらも伝えることができるという。家族等の来訪頻度は多く、職員は声を掛け、意見、要望が言い易い雰囲気作り心がけている。毎月の請求書と一緒に、「グループホームかわべちよう敬老園便り」と手紙(一人ひとりの様子を書き加えて)を郵送し、ホームでの様子をお知らせしている。納涼祭、家族会等の集いには個別に話せる機会を設け、意見・感想等を聴き運営に反映させている。介護相談員の来訪時には利用者の意見や要望等を引き出していただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談の時間をもち意見をきいている。管理者と職員が1:1で話す時間をもうけ意見やアイデアを聞き日々のケアの見直しや事故防止に取り入れている。	スタッフ会議は毎月第一火曜日に、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の職員と合同で実施されている。前半は合同会議、後半は各事業毎のケース検討会、再発防止に向けた事故トラブル報告の検証等の意見交換が行われ、職員の意見や提案を聞く機会も設けている。人事考課制度の導入も進み職員は自己評価を行い目標に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事評価制度がH28年度より開始される事に伴い現在試用期間となっている。努力や実績を評価してもらう事が出来、また勤続年数に応じたリフレッシュ休暇等がありやりがいや楽しみを持つ事ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は法人内外の研修を受ける機会を設けており、働きながら学ぶ機会を得る事ができている。資格取得のために情報の発信や研修の機会など設け支援をしている。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームへの交換研修が行われている。また、今年度から上田市内のグループホームで作るフレンド会に入れて頂き交換研修や交流会に参加する事が出来た。他の事業所を見せて頂いたり交流する事で良い学びの機会を得る事が出来ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居頂けるように事前にご本人の希望や生活の様子の情報を得る様にしている。入居後も心身・表情の観察に努め不安無く生活が始められる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に不安なことなどお聞きしている。入居後も近況などを面会時やお手紙で報告しご家族も安心出来る様にしている。要望等は職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービスがいきなり途切れないよう時々訪問したり、また前のサービスの職員やご利用者と短時間でも一緒に過ごす時間を持つ様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割やレク・会話の中で力が発揮できるように関係を築いている。毎日の生活の中で利用者にお礼の言葉を伝える事を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を面会時などにお伝えしている。又、家族に対する本人の思いの言葉や表情を記録して伝えるようにしている。家族の思いも受け止め大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方の面会をゆっくりに楽しんでいただけるようにしている。また、家族や親せきとの温泉旅行や法事への参列・墓参りなど今までしてきたことが継続できるように支援している。	近所の方の面会や年賀状が届く方もいる。職員と一緒に住所を書き、一言添えて返信している。法事への参列や墓参り、新年の初詣など、一人ひとりの生活習慣を尊重し出掛ける場面をつくっている。家族や親戚との絆を大切にしながら関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握できるように観察し、トラブルになりそうなきはさりげなく別の仕事や役割をお願いするなどして調整役をしているが、ご利用者同士が支え合う場面も見られている		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談がある時はいつでも訪問や電話を頂ける様お伝えし、今までの関係性が途切れないよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接伺う機会を持つとともに、言葉にできない時は本人の表情や日常の何気ない一言を大事にし希望や思いを検討し日々のケアに活かす様にしている。	具体的な希望や意見を言葉にして表出する方は少なく、日々の行動や表情から汲み取り把握している。何気なく発する一言に耳を傾け、言葉にしづらい思いを汲み取り、検討し、実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握出来る事で本人の思いや希望に近づく事が出来ると思う。入居時には家族の協力を得て生活歴や好きな物嫌いな物シートを記入してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間の様子や表情・言葉を個別の日課表に記録し職員は共有している。できることを大事に支援しました、出来ないことで困る事や辛い思いをしないようさりげなくお手伝いするなどしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に暮らしの希望を伺うとともにひもときシートを利用し介護計画に反映させている。	本人や家族と話し合い現状に即した介護計画を作成している。短期目標(6ヶ月)長期目標(一年)を立て、より良く暮らせるための指標としている。状態に変化のある場合には本人や家族に説明し計画変更や目標を立て直す等をしている。居室担当職員は身の回りのお世話をする中で気づきを計画作成担当者や家族と共有し、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やなにげない一言や表情を個別の日課表や記録に記入し、その後のケアやプランに活かせるようにしている。日々のプラン実行表もあり毎日確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況で受診の都合がつかない場合は職員が対応している。家族や親戚の方に利用者と一緒に食事をして頂ける様お誘いすることもある。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からお付き合いのある傾聴ボランティアに引き続き来園していただいている利用者がいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もなじみのかかりつけ医による医療を受けられる様にしている。受診時は情報提供を行っている。必要時は往診をしていただけている方もいる。緊急で家族対応が出来ない時は職員が対応し受診できるようにしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や予防接種は家族の付き添いをお願いしているが、不可能な時には職員が代行することもある。受診の際には必要な情報や状態の変化を情報提供している。訪問看護師の訪問(1回/週)があり、ホームでの様子や体調の変化を伝え、適切な医療に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を結びひと月に4回の訪問があり健康観察を受けている。体調に変化のあった時は早めの報告をして必要時は受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、情報提供や交換をケースワーカーを通じて行っている。退院時は主治医による病状説明を家族と一緒に聞かせていただいている。退院準備はケースワーカーと連絡を取り合い受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期にグループホームで出来る事・出来無い事を本人・家族に説明している。 グループホームで終末期を迎えた時は、家族の気持ちの変化や思いを受け止められるよう関係者と連携を持ち支援したい。	「重度化対応及び終末期ケア対応指針」があり契約時に説明している。本人や家族の意向を踏まえ、事業所の出来ることを十分に説明し、チームで支援に取り組もうとする姿勢がある。職員は法人内のターミナル研修を受講し、更にホームの内部研修として訪問看護師との連携に必要な情報やバイタルサインなど、良く耳にすることが具体的にどんなことなのかを掘り下げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修で年に1回AEDを含めた救急対応を勉強する機会をもっている。また、スタッフ会議を利用し急変時や救急車要請時の対応・手順を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や消防訓練を行っている。 運営推進会議を通じ地域の協力体制をお願いしている。事業所内でアルファ米や缶詰め・水・カセットコンロの備蓄を整えている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で防災訓練を実施している。10月には消防署の立会いの下、避難・誘導・消火の訓練を行った。ホームでは想定を変えた実践的な訓練を毎月行っており、いざという時に備えている。今年度はホームの備蓄(水・アルファ米・缶詰・カセットコンロ)も準備したという。建物2階の東側には避難用のスロープが常設され、いざという時に慌てず確実な避難誘導が出来るように繰り返し訓練を行っている。各居室と共同スペースにはスプリンクラーと火災報知機が設置されている。地域との防災協定の締結については検討をお願いしている。	

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけをするときは表情や声のトーン・口調にも気を付けるように職員で確認している。介助が必要な時は、さりげなく声を掛け本人が恥ずかしい思いや嫌な思いをしないよう努めている。	一人ひとりの誇りを大切にし、自己決定のしやすい言葉かけをするよう努め、言葉や語調に気をつけ、年長者として敬意を払い対応している。職員は人権、接遇に関する研修で意識を高めている。さりげなく声を掛け、恥ずかしい思いや、嫌な思いをしないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定でしたい事や食べたいものなど決定できるようにしている。選択しやすいように何うなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその流れはあるが必ず本人に声を掛け意志の確認をしてからおこなっている。家事仕事など本人のペースに合わせて慌てないように出来る様支援している。消灯時間やテレビの時間は決めず利用者の自由としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部の業者に理美容を委託しているが、本人の希望を伺い好みの色にヘアカラーをしたり、髪のカットが出来る様にしている。お化粧をしたり、スカーフを巻いたり本人のしたい事が継続出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり卵を割ったり下準備や調理・盛り付け・かたづけを一緒におこなっている。また、味付けや味見をお願いしている。やって頂いた時はお礼の言葉を伝えている。	基本メニューは法人の栄養士が立てている。食材が配達され利用者と一緒に調理をしている。一人ひとりの力に応じて準備、調理、片付けをいただいている。おやつ作り(おはぎ、たこ焼き、お好み焼き、おしるこ等)を和気藹々と楽しみながら行い、外出の時には回転寿司や法人の運営するレストランなどで外食し食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。利用者の殆どは常食で、好みのものや馴染みのものが食べられるように工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養課のメニューを基本としているが、グループホームの利用者の好みやイベント食に変更するときもある。季節の野菜や果物などの頂きものも多いので活用させていただきご利用者に楽しんでいただいている。毎食の食事や水分の摂取量を記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが出来る様声掛けや物品の手渡しなど必要に応じて支援している。義歯洗浄剤や舌ブラシを使用している利用者もいる。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握したり様子を見てさりげなくトイレにご案内している。一人一人検討し本人本位を大事に支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。約半数の利用者は自立し、オムツの方はいない。一人ひとりの力や排泄状況に応じて、行きたい時にトイレに行けるように支援し、排泄用品等を見極め検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し排便を確認した時は記録している。便秘の場合は腹部マッサージをしたり医師より処方された便秘薬を服用して頂く。牛乳・水分や野菜など十分に摂って頂けるように声掛けや提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	外出などの予定がある時は前日に入浴し、さっぱりし外出できるようにしている。入浴の気分にならない方は時間を置いて声掛けしている。おおよその回数は決まっているが本人の希望を出来るだけ尊重できるようにしている。	一人ひとりの生活習慣や希望に合わせて入浴できるようにしている。2~3日おきに入浴ができ、体調や気分の優れない時には時間帯を変えたり別の日に入浴するなど、臨機応変に対応している。浴室、浴槽は一般家庭とほぼ同じで大きさであり、浴槽は移動式で3方向から足入れができる仕組みとなっている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所には特殊浴槽があり、状態に応じて使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動し夜間にぐっすり休めるように支援しているが、午睡が必要な方は適宜横になって頂けるようにお手伝いしている。午睡もベッドではなくリビングのソファがいい方はリビングでうたた寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や変更があった場合は訪問看護へ情報を提供している。薬をセットする職員と服薬介助する職員を分けダブルチェックし誤薬を防いでいる。薬情で内容の確認もしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事づくりや洗濯干しや洗濯たたみ・肩たたきなど得意分野で力を発揮して頂き必ず感謝の言葉を伝えている。ベランダで山並みを見る楽しみを持っている方もいるので一緒に楽しんでいる。体操や歌での気分転換を喜ばれるご利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそってスーパーへ買い物やウィンドショッピングを楽しみに行く。歩いて近所のコンビニへの買い物にも出掛けている。御家族と外食やお茶を楽しまれたり、家族と自宅へ帰ったり、温泉旅行にも出掛けられている。	気分転換を兼ねホーム周辺を散歩したり、ベランダに出て外気にあたりストレスを発散している。近くのコンビニでの買い物や個々の希望に沿って支援している。年間の外出計画を立て普段行けないような場所に出掛け五感を刺激している。墓参りや馴染みの懐かしい場所には家族の協力をいただくなど、個別の外出の機会も設けている。	

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人の希望で少額のお金を持っている方もいるがほとんどの利用者はお金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達や親戚の方からの手紙が来るので本人に渡している。年賀状の返事を出したい希望があった時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルやいすは木を基調とし落ち着いた雰囲気がある。季節の置物や花や木の実・果物を飾り季節感を出している。温度・湿度を管理し気持ちよく快適に過ごせるように気を付けている。	一日の多くの時間を過ごす食堂兼居間は開放的で四方を見渡すことができ、中心にあるオープンキッチンには食事やおやつ準備をする利用者と職員が集まり共同作業をするのに都合の良いスペースとなっている。南側、北側には居室が一行に並び、中央にトイレ、浴室等の共有のスペースがあり機能的で使いやすくなっている。ホーム全体に自然な採光を取り入れ、室内は適温に調節され過ごし易くなっている。ホーム内のあちこちには利用者の製作した貼り絵や写真(外出・行事)が飾られ、ホームの中には季節に応じた花や果物も置かれ、生活感や季節感を取り入れる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり畳のスペースのこたつで横になったり自由に好きな場所で過ごせる。畳コーナーで洗濯物をたたんで頂くなど自宅に居る様に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみのたんすやテーブル・椅子また仏壇などが持ちこまれている。仏壇にお供えものをしたりなじみの椅子に腰かけリラックスされくつろがれている。家族の写真に囲まれている方もいる。	全居室に洗面台と収納スペースが完備されている。居室の入り口にのれんを吊り下げ、目隠しや目印とする方もいる。御先祖様や大切な家族の位牌・仏壇を傍に置く方、長年使い慣れた筆筒や調度品を持ち込んでいる方など、自宅に近い環境で生活できるように工夫をし、その人らしい居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に暖簾を飾り個性を出したり分かり易くしている方が多い。廊下やフロアは段差がないのでシルバーカーで歩行ができる。フロアが広いので歩行運動をされたり手すりにつかまりダンスの練習をされている方もいる。		